MITSUBISHI ELECTRIC

WT08598X06
871D629F10

三菱電機ビル空調管理システム
三菱電機スリムエアコン
[共通]
MA コンパクトリモコン

形名

PAC-SF01CR
PAC-SF01CR-P

据付工事説明書（据付編）
（販売店・工事店様用）

もくじ　　ページ

安全のために必ず守ること …… 4
1. 使用部品 …… 11
2. 使用箇所（据付工事の概要） …… 13
3. 据付場所の選定 …… 14
4. 据付工事・電気工事 …… 18
5. 据付工事後の確認 …… 31
6. 試運転 …… 32
7. お客様への説明 …… 33
8. 安全に長くお使いいただくために …… 34

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- 「据付工事説明書」は大切に保管してください。
- お客様ご自身では、据付けないでください。（安全や機能の確保ができません。）
- この製品は日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
  This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

もくじ

ページ

安全のために必ず守ること ····· **4**
1. 使用部品 ····· **11**
1-1. 同梱部品 ····· 11
1-2. 別売部品 ····· 11
1-3. 一般市販部品 ····· 12
2. 使用箇所（据付工事の概要） ····· **13**
3. 据付場所の選定 ····· **14**
3-1. 法規制・条例の遵守事項 ····· 15
3-2. 公害・環境汚染への配慮事項 ····· 15
3-3. 製品の機能性能を発揮するための事項 ····· 15
3-4. 保守・点検に関する事項 ····· 17
4. 据付工事・電気工事 ····· **18**
4-1. 建物工事の進行と施工内容 ····· 18
4-2. 諸官庁および関連部門への届出・報告事項 ····· 18
4-3. 従来工事方法との相違 ····· 18
4-4. 据付と電気工事をする ····· 23
4-4-1. 必要工具 ····· 23
4-4-2. 据付工事 ····· 24
4-5. サービス ····· 30
5. 据付工事後の確認 ····· **31**
5-1. 据付工事のチェックリスト ····· 31
5-2. リモコンの設定 ····· 31
5-3. 温度センサの設定 ····· 31
5-4. 保護シートの取外し ····· 31

ページ

6. 試運転 ……**32**
6-1. 試運転の方法……32
6-2. 試運転中の確認事項……32
7. お客様への説明 ……**33**
8. 安全に長くお使いいただくために ……**34**
8-1. 日常の保守……34
8-1-1. 上ケースの清掃……34
8-2. 点検時の交換部品と保有期間……34
8-3. 商標について……35

この説明書は共通MAコンパクトリモコン(三菱電機 ビル 空調管理システム<直膨式マルチエアコン室内ユニット(Cタイプ以降)>用と三菱電機スリムエアコン用)の据付工事について記載しています。リモコンの操作・設定方法に関しては据付工事説明書(設定編)、空調機本体への配線および空調機本体の据付工事に関しては空調機本体の据付工事説明書を参照してください。
この説明書は、据付工事完了後にお客様にお渡しください。

WT08598X06

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うおそれのあるもの
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う、または物的損害が発生するおそれのあるもの

- 図記号の意味は次のとおりです。

（一般禁止）
（水ぬれ禁止）
（ぬれ手禁止）

（一般指示）

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

第一種電気工事士が電気工事を行うこと。（第二種電気工事士は電気工事士法で認められた範囲のみ対応可）

一般事項

⚠ 警告

以下の特殊な環境にコントローラを据え付けないこと。
- **油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところ**
- **酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところ**

- 電気部品腐食による感電・性能低下・故障・発煙・火災のおそれあり。

据付禁止

改造はしないこと。

- けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

コントローラを水・液体で洗わないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

ぬれ手禁止

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。
- 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。

指示を実行

ユニットを病院など医療機関に据付ける場合はノイズ対策を行うこと。

- ノイズが医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。

指示を実行

⚠注意

先のとがった物で表示部・スイッチ・ボタンを押さないこと。

- 感電・故障のおそれあり。

使用禁止

据付工事をするときに

⚠ 警 告

以下の場所にコントローラを設置しないこと。
- **可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがある場所**

- 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。

禁止

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。
- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

梱包材は破棄すること。
- 窒息事故のおそれあり。

指示を実行

据付工事は、販売店または専門の工事店が実施すること。
- 間違った工事は、事故のおそれあり。
- お客様ご自身での工事は、事故のおそれあり。

指示を実行

据付工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を使用すること。
- 当社指定部品を使用しないと、事故のおそれあり。

指示を実行

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- コントローラの落下によるけがのおそれあり。

指示を実行

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

- 感電・火災のおそれあり。

指示を実行

⚠ 注意

“パチッ”と音がするまではめ込むこと。

- はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。

指示を実行

電気工事をするときに

⚠ 警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。

接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

電気工事は、第一種電気工事士が以下に従って行うこと。（第二種電気工事士は電気工事士法で認められた範囲のみ対応可）

- **電気設備に関する技術基準**
- **内線規程**
- **据付工事説明書**

- 施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

配線引込口およびねじ穴をパテでシールすること。

- 露・水・虫が入ると、感電・故障・火災のおそれあり。
- 水の浸入、内部結露による基板の故障のおそれあり。

指示を実行

⚠注意

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ショート・感電・故障のおそれあり。

指示を実行

シールド線を使用する場合、シールド部の絶縁処理を行うこと。

- ショート・感電・故障のおそれあり。

指示を実行

移設・修理をするときに

⚠ 警告

分解・改造はしないこと。移設・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

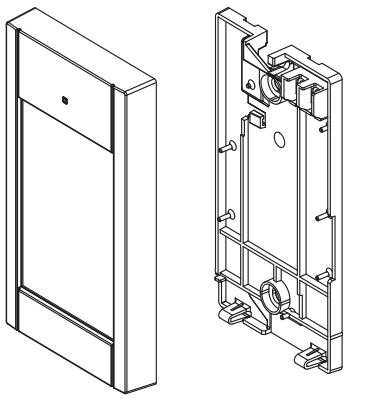
1. 使用部品

1-1. 同梱部品

箱の中には下記部品が入っています。

No.	品名	個数（個）	外観
D-1	リモコン（上ケース）	1	右図※1
D-2	リモコン（下ケース）	1	右図※2
D-3	十字穴付きナベねじ M4 × 30	2	
D-4	木ねじ 4.1 × 16 （壁に直接取付けるとき使用）	2	
D-5	据付工事説明書（据付編）（本書）	1	
D-6	据付工事説明書（設定編）	1	
D-7	取扱説明書	1	
D-8	取扱説明書（Bluetooth® 設定編）	1	

上ケース ※1　下ケース ※2



・リモコンケーブルは同梱していません。

1-2. 別売部品

No.	品名	形名	備考
P-1	リモコンケーブル （0.3mm^2 2 心シース付ケーブル）	PAC-YT81HC(10m), PAC-YT82HC(20m) ※3	—

※3　シティマルチ S（PUSY-P80, 112形）およびスリム K（PUZ-KP140, 160形）の機種と接続する場合は使用できません。

1-3. 一般市販部品

下記の部品は現地で手配してください。

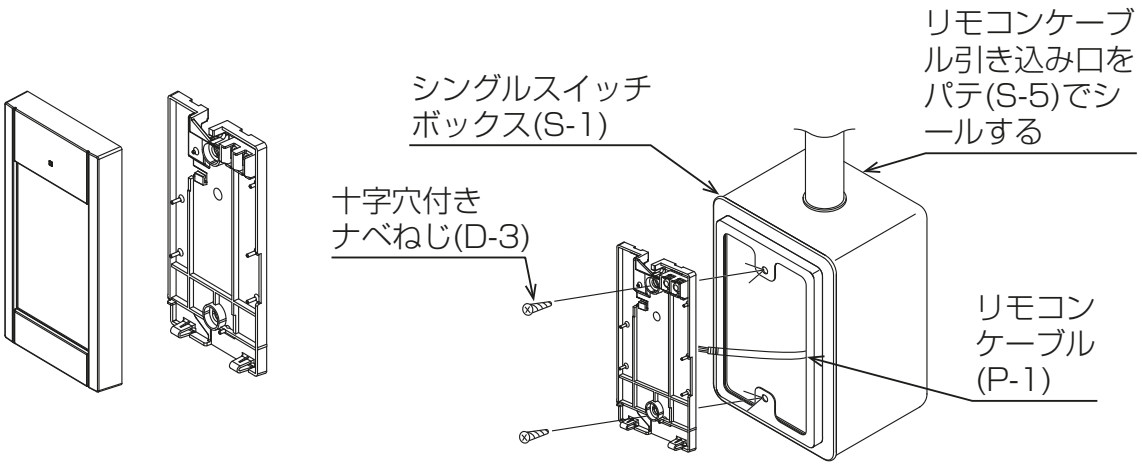
No.	品名	所要量	備考
S-1	スイッチボックス：1個用 (JIS C8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
S-2	薄鋼電線管 (JIS C8305)	必要量	
S-3	ロックナット、ブッシング (JIS C8330)	必要量	
S-4	モール (JIS C8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面にはわす場合に必要です。
S-5	パテ	適量	
S-6	モリーアンカー	必要量	
S-7	リモコンケーブル (0.3mm^2 2心シース付ケーブル)	必要量	シティマルチS (PUSY-P80, 112形) およびスリムK (PUZ-KP140, 160形) と接続し、リモコン配線の総延長 (※1) が10m以上で使用する場合はシールド線 (MVVS:0.3mm^2 2心ケーブル) を使用してください。(※2)

※1　室内ユニットのMAリモコン用端子台 (TB15) 間の渡り配線も含みます。

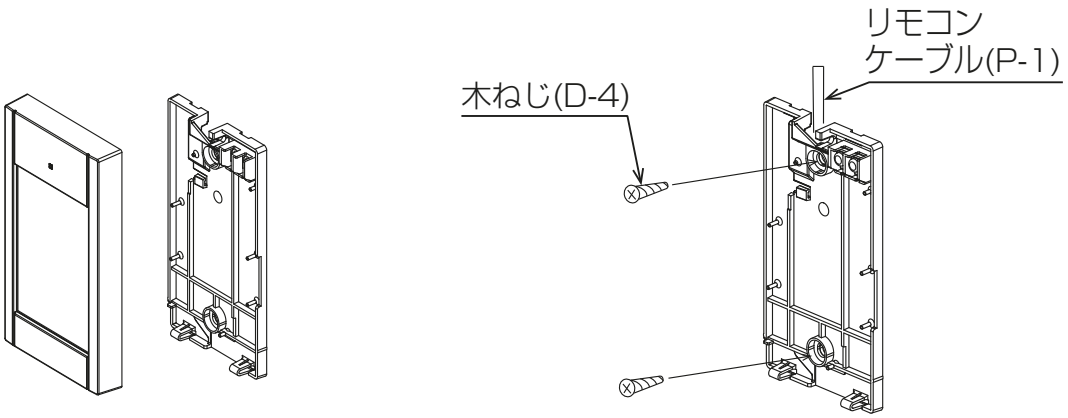
※2　シールド線のアースは室内ユニットのMAリモコン用S端子に接続してください。

2. 使用箇所（据付工事の概要）

[1] スイッチボックスを使用する場合



[2] 壁面に直接据付ける場合



3. 据付場所の選定

⚠ 警告

以下の場所にコントローラを設置しないこと。

- **可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがある場所**

- 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。

禁止

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

ユニットを病院など医療機関に据付ける場合はノイズ対策を行うこと。

- ノイズが医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。

指示を実行

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- コントローラの落下によるけがのおそれあり。

指示を実行

お願い

- **コントローラを導電性があるところ(塗装をしていない金属面など)に据え付けないでください。**
  故障・誤動作のおそれがあります。
- **直射日光のあたる場所、または周囲温度が40℃以上・0℃以下になる場**

所にコントローラを据付けないでください。
変形・故障のおそれがあります。

- **コントローラ設置壁面の表面付近の温度と実際の室温との差が大きい場所に据付けないでください。**
  正確な室温を検知できず、正常な運転ができないおそれがあります。
- **コントローラを通信・放送設備がある所に据え付ける場合は、ノイズ対策をしてください。**
  ノイズにより映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれがあります。
  インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響によるコントローラの故障・誤動作のおそれがあります。

3-1. 法規制・条例の遵守事項

法規制、地方条例などを遵守することを配慮して据付場所を選定してください。

- 各自治体で定められている騒音・振動等の設置環境に関する条例

3-2. 公害・環境汚染への配慮事項

公害や環境に対し配慮して据付場所を選定してください。

3-3. 製品の機能性能を発揮するための事項

本リモコンは壁面に据付ける仕様となっています。「スイッチボックスを使用する」または「壁面に直接据付ける」が選択できます。「壁面に直接据付ける」場合、配線取出し方法を「背面取出し」または「上部取出し」から選択できます。
リモコン（スイッチボックス）を、次の条件を満たす場所に据付けてください。

(1) リモコンが正確な室内温度を検知できる所

室内温度を検知する温度センサはリモコンと室内ユニットの両方に付いています。リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合は、下記事項を守ってください。

- リモコンは、熱源の影響を受けない場所に据付けてください。
  (直射日光やエアコンの吹き出し空気が直接あたる場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)
- リモコンは、部屋の平均的な温度を検知できる場所に据付けてください。
- リモコンの温度センサ付近に他の配線が無い場所に据付けてください。
  (配線がある場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)

お願い

- **室温と壁温の差が大きい場合、リモコン設置壁面の表面付近の温度を検知するため室温と差が出るおそれがあります。**
  以下のような設置条件の場合、室内ユニットの温度センサ使用を推奨します。
  - 室内の気流分布が悪く、リモコン周辺の温度と室温の差が大きい場合
  - 設置壁面の温度と室温の差が大きい場合
  - 設置壁面の背面が外気に接している場合

お知らせ

- 急激な温度変化がある場合、温度検知の追従性が悪くなります。

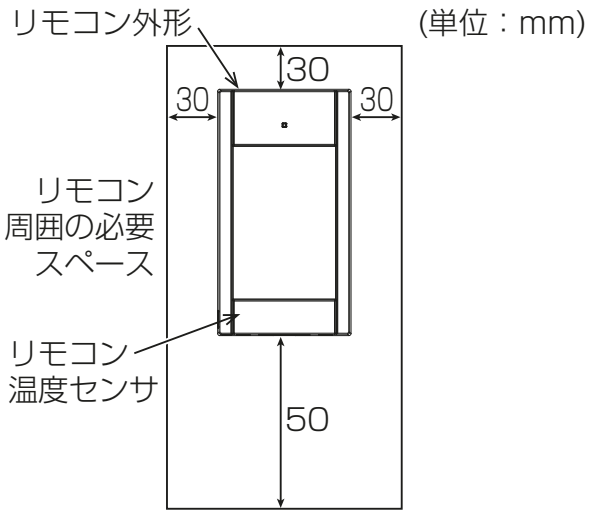
(2) 据付面が平らな所

(3) 室内ユニットが確認できる所

フィルタの自動昇降機能付室内ユニットと接続される場合、操作する室内ユニットの昇降動作がリモコンを操作しながら確認できる所 (自動昇降の操作方法については室内ユニットの取扱説明書を参照してください。)

[1] 据付スペース

リモコンをスイッチボックス･壁面のどちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。スペースが不足すると、リモコンを外しにくくなります。
また、リモコン正面側には操作ができるスペースを確保してください。



3-4. 保守・点検に関する事項

工事をされた方は、顧客と保守契約を結び、本製品を含む空調システムが安全にかつ良好な状態で運転していることを定期的に確認してください。

4. 据付工事・電気工事

4-1. 建物工事の進行と施工内容

据付場所に据付けられる状態になりましたら、据付工事をしてください。

[1] スイッチボックスを使用する場合

壁面仕上げ材を取付ける前にスイッチボックスを取付け、電線管と接合しておき、事前にケーブルを通しておいてください。
その後壁面仕上げ材を取付けておいてください。

[2] 壁面に直接据付ける場合

壁面仕上げ材を取付ける前にリモコンを取付ける予定のところにケーブルを配設しておいてください。
その後壁面仕上げ材を取付けておいてください。

4-2. 諸官庁および関連部門への届出・報告事項

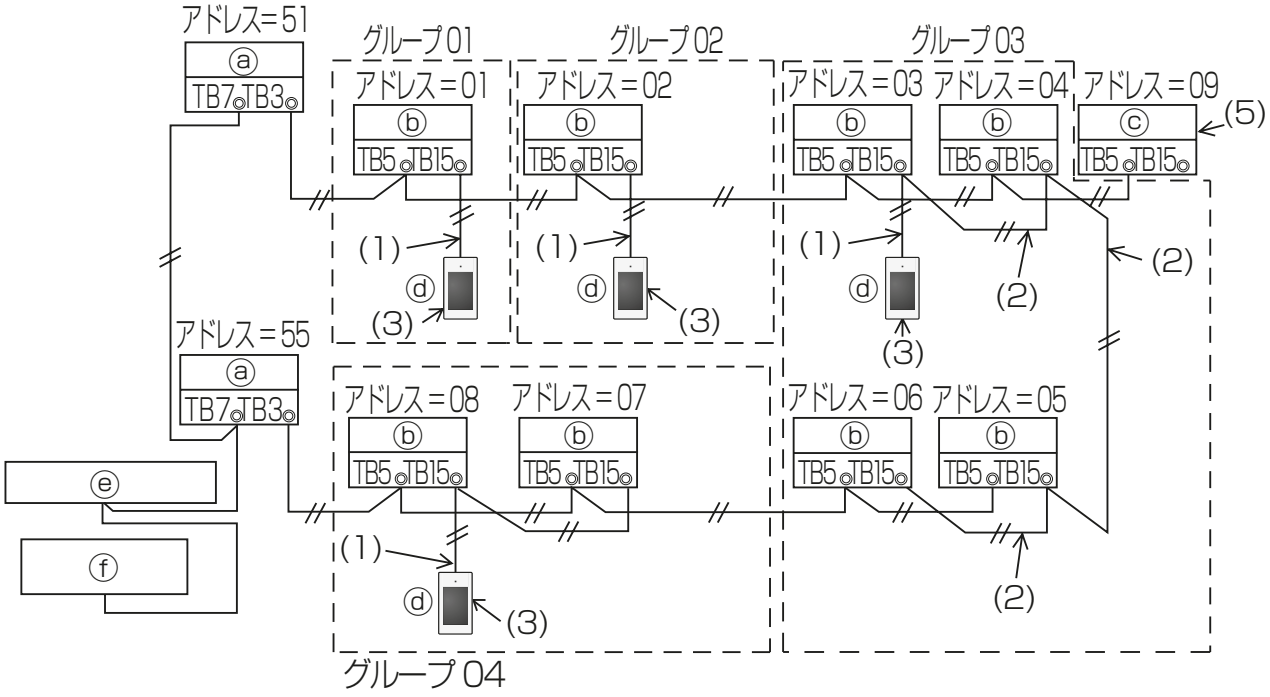
特にありません。

4-3. 従来工事方法との相違

リモコンの配線は、マルチエアコンに接続する場合とスリムエアコンに接続する場合では異なります。
さらにシステム構成によっても異なりますので、次ページ以降を確認してください。
空調機本体への配線および空調機本体の据付工事に関しては空調機本体の据付工事説明書を参照してください。

[1] マルチエアコンシステムとの接続

図中の（1）～（5）は、以下の説明文（1）～（5）と対応していますので確認してください。



本リモコンは
室内ユニットTB15
へ接続してください

ⓐ 室外ユニット
ⓑ 室内ユニット
ⓒ ロスナイ
ⓓ リモコン
ⓔ システムコントローラ
ⓕ 伝送線用給電ユニット

(1) リモコン-室内ユニットの配線

- 室内ユニットのMA リモコン用端子台（TB15）へ接続してください。
- 端子台に極性はありません。リモコン下ケースにある端子台に接続してください。

(2) グループ運転する場合（グループ03 および04）

- グループ運転する室内ユニットのMA リモコン用端子台（TB15）同士を渡り配線し、いずれかのMA リモコン用端子台（TB15）にMA リモコンを接続してください。
- 上図のようにシステムコントローラと併用する場合、システムコントローラ側でグループ設定が必要です。

(3) 接続可能なリモコン台数

- グループ内に本リモコンを1台のみ接続できます。

(4) リモコンケーブルの総延長

- 接続される室内ユニットにより異なります。室内ユニットの据付工事説明書、カタログ、システム・設計工事マニュアルなどで確認してください。
- リモコン 1 台接続時の総延長は最大で 70m です。使用するリモコンケーブルについては「1-2. 別売部品」の P-1 と「1-3. 一般市販部品」の S-7 を参照してください。

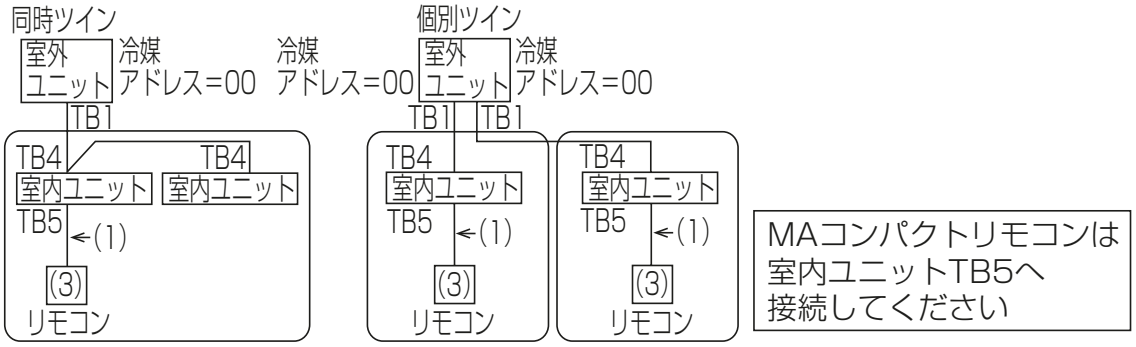
(5) ロスナイを連動させる場合

据付工事説明書（設定編）を参照し、リモコンで設定してください。

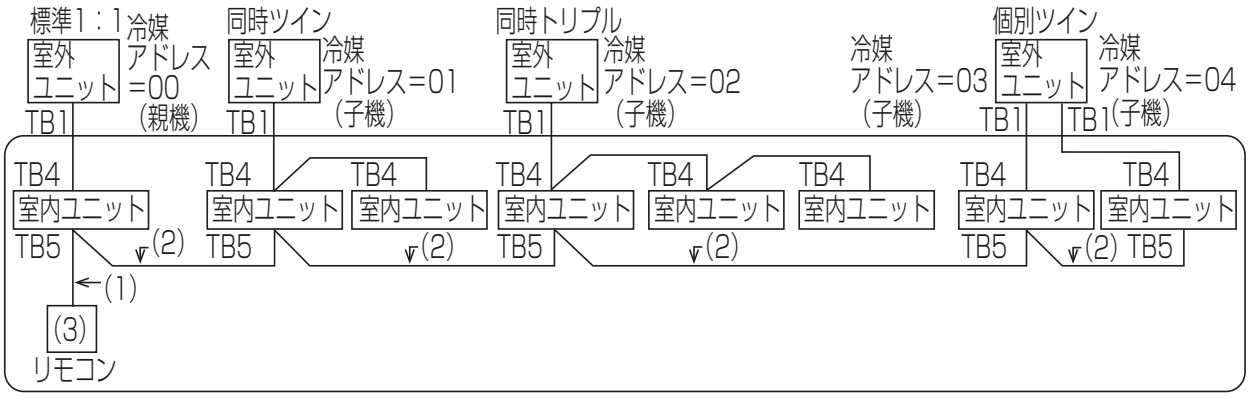
[2] スリムエアコンと接続する場合

リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って接続してください。
図中の（1）～（4）は以下の説明文（1）～（4）と対応しています。

冷媒系統ごとにリモコンを接続する場合



異冷媒系統でグルーピングする場合



お知らせ

- 冷媒アドレスの設定は室外ユニットのディップスイッチで行ないます。（詳細は室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。）
- ⊂⊃で囲まれた全室内ユニットを 1 グループとして制御します。

(1) リモコン - 室内ユニットの配線

- 室内ユニットのリモコン用端子台（TB5）へ接続してください。（極性はありません。）
- 同時マルチタイプにおいて、異なる機種の室内ユニットが混在する場合、機能（風速、ベーン、ルーバーなど）の多い室内ユニットにリモコンを接続してください。

(2) 異冷媒系統でグルーピングする場合の配線

- リモコンケーブル接続によりグルーピングを行ないます。グルーピングする各冷媒系統の室内ユニット代表 1 台のリモコン用端子台（TB5）間を渡り配線してください。
- 同一グループ内に異なる機種の室内ユニットが混在する場合、機能（風速、ベーン、ルーバーなど）の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機（冷媒アドレス＝00）としてください。また親機が同時マルチタイプとなった場合には (1) の条件を満たしてください。
- ＭＡコンパクトリモコンでは最大 16 冷媒系統を 1 グループとして制御可能です。

(3) 接続可能なリモコン台数

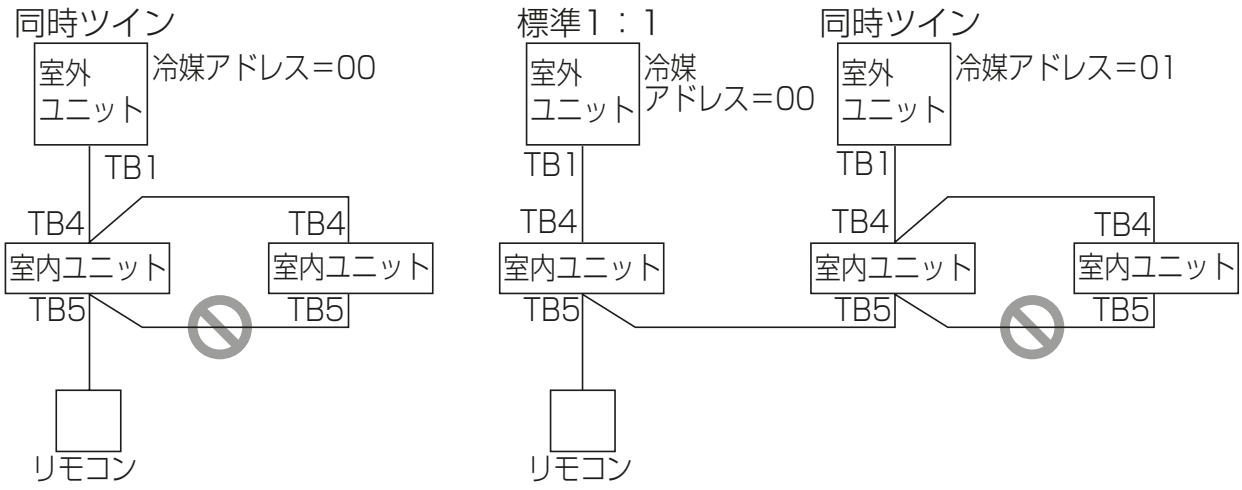
- グループ内に本リモコンを 1 台のみ接続できます。

(4) リモコンケーブルの総延長

- 接続される室内ユニットにより異なります。室内ユニットの据付工事説明書、技術マニュアルなどで確認してください。
- リモコン 1 台接続時の総延長は最大で 150m です。使用するリモコンケーブルについては「1-2. 別売部品」の P-1 と「1-3. 一般市販部品」の S-7 を参照してください。

お願い

- **同一冷媒系統の室内ユニットのリモコン用端子台（TB5）間の渡り配線はしないでください。**
  渡り配線した場合、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- **室内ユニットのリモコン用端子台（TB5）へ接続する場合、1つの端子台に同じサイズの配線を2本までとしてください。**
  不備がある場合、接触不良や配線外れのおそれがあります。



4-4. 据付と電気工事をする

⚠ 警告

配線引込口およびねじ穴をパテでシールすること。

- 露・水・虫が入ると、感電・故障・火災のおそれあり。
- 水の浸入、内部結露による基板の故障のおそれあり。

指示を実行

⚠ 注意

“パチッ”と音がするまではめ込むこと。

- はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。

指示を実行

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ショート・感電・故障のおそれあり。

指示を実行

4-4-1. 必要工具

- マイナスドライバー（刃幅3～5mm）
- ニッパー
- その他一般工具

4-4-2. 据付工事

[1] リモコンの据付け方

据付工事には「スイッチボックスを使用する場合」と「壁面に直接据付ける場合」があります。据付け方法に応じて工事をしてください。

お願い

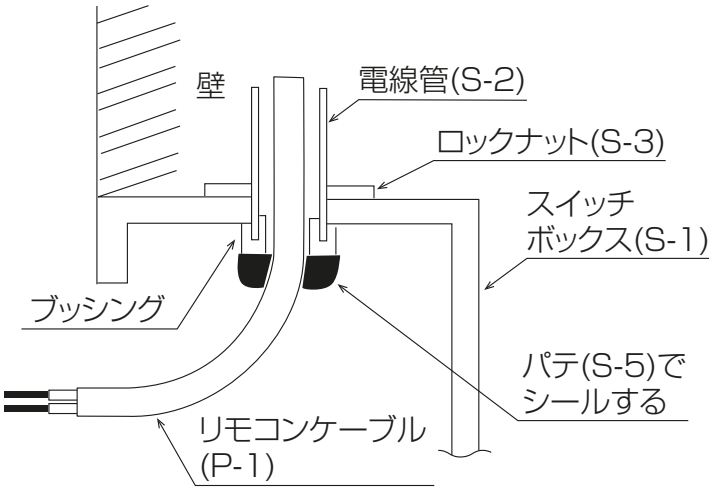
- 壁面に穴を開ける際、下ケースと壁の設置面積を確保できるよう、穴の大きさを調整してください。
  壁面の穴が大きすぎる場合、リモコンにがたつきが発生する場合があります。

(1) 壁面に据付用の穴を開ける

スイッチボックスを使用する場合

手順

1. 壁面に穴を開け、スイッチボックスを据付ける。
2. スイッチボックスと電線管を接合する。



壁面に直接据付ける場合

手順

1. 必要に応じて、リモコン中央上部から0.5～1cm程度下の位置の壁に穴を開ける。
2. リモコンケーブルをリモコン内部に通す。

(2) リモコンケーブル引込口をシールする

スイッチボックスを使用する場合

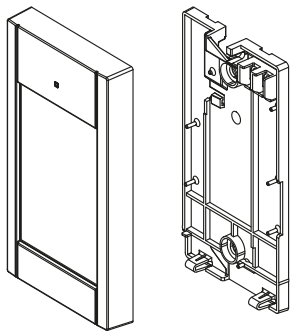
手順

1. スイッチボックスと電線管の結合部のリモコンケーブル引込口をパテでシールする。

(3) リモコンを準備する

手順

1. リモコン本体の下ケースを取出す。



(4) リモコンケーブルを下ケースの端子台に接続する

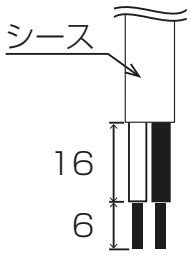
⚠注意

シールド線を使用する場合、シールド部の絶縁処理を行うこと。

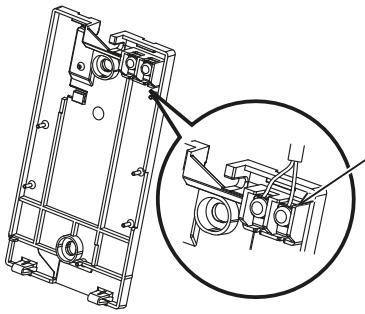
- ショート・感電・故障のおそれあり。

指示を実行

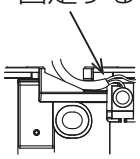
リモコンケーブルを下図のように加工し、端子台に適切に接続してください。リモコンケーブルのシースをむきとった部分がケース内に納まるよう、リモコンケーブルを固定してください。

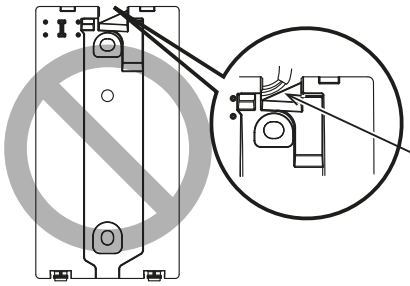


(単位：mm)

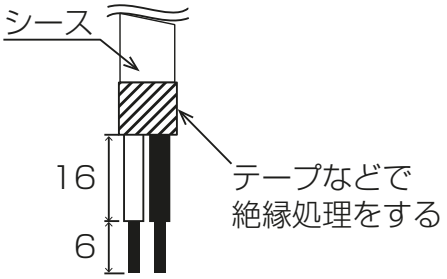


ケーブルのシース部を
ケース内に差し込んで、固定する





※ シールド線（MVVS）を使用する場合、シールド部が製品内でショートしないようテープなどで絶縁処理を行ってください。



(単位：mm)

壁面に直接据付ける場合（リモコンケーブルを壁面から引き出す場合）

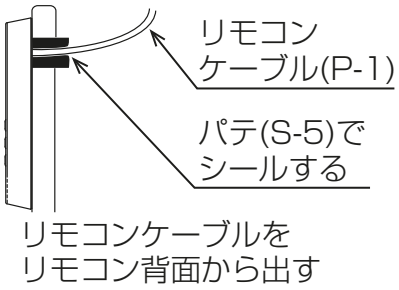
⚠注意

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ショート・感電・故障のおそれあり。

手順

1. リモコンケーブルを通した穴をパテでシールする。
   パテは壁面から盛り上がらないようにしてください。



お願い

- **配線を端子台に接続する際に圧着端子を使用しないでください。**
  - 基板と接触し故障するおそれがあります。
  - 上ケースと接触し、上ケースが損傷するおそれがあります。

(5) 下ケースを据付ける

スイッチボックスを使用する場合

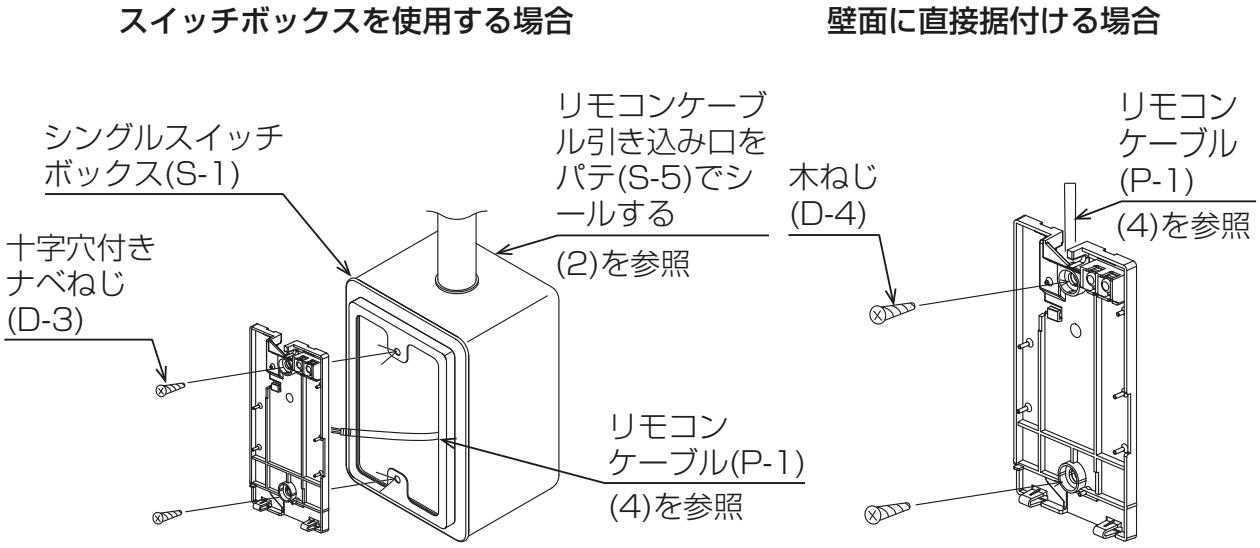
手順

1. 下ケースは２か所固定する。

壁面に直接据付ける場合

手順

1. ケーブルを溝に通す。
2. 下ケースは２か所固定する。
3. 配線により壁面からリモコンが浮くことを防止するため、２か所を固定する。（モリーアンカーなどを使用して固定してください。）



お願い

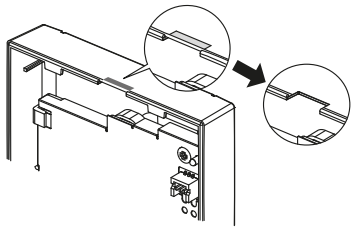
- **ねじを締めすぎないでください。**
  損傷するおそれがあります。
- **コントローラのケースに追加穴をあけないでください。**
  損傷するおそれがあります。

(6) 配線穴を加工する

壁面に直接据付ける場合（リモコンケーブルを壁面にはわす場合）

手順

1. 上ケースの内側薄肉部（右図の塗潰し部）をニッパーなどで切り取る。
（下ケース背面の配線溝に通したリモコンケーブルをこの部分から取出します。）



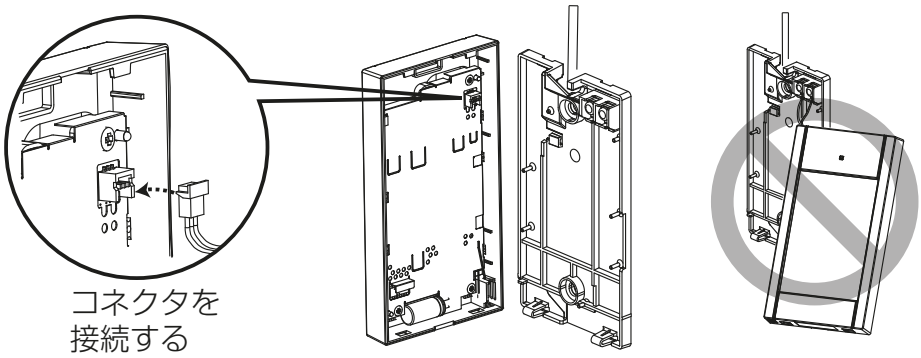
お願い

- **上ケースを下ケースから取外して加工してください。**
取外さないで加工した場合、基板が破損するおそれがあります。

(7) 上ケースに配線する

手順

1. 上ケースのソケットに、下ケースのコネクタを接続する。



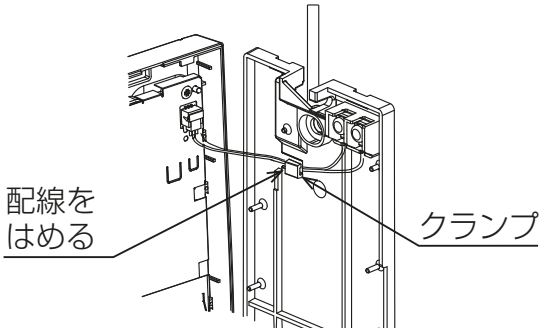
お願い

- **リモコンのケースから基板保護シート・基板は取り外さないでください。**
故障のおそれがあります。
- **リモコンのコネクタ接続後、ケースをぶら下げないでください。**
断線し、動作に支障をきたすおそれがあります。

(8) 配線をクランプにはめる

お願い

- **リモコンの配線はクランプにはめて固定してください。**
固定していない場合、端子台に直接力が加わり断線のおそれがあります。

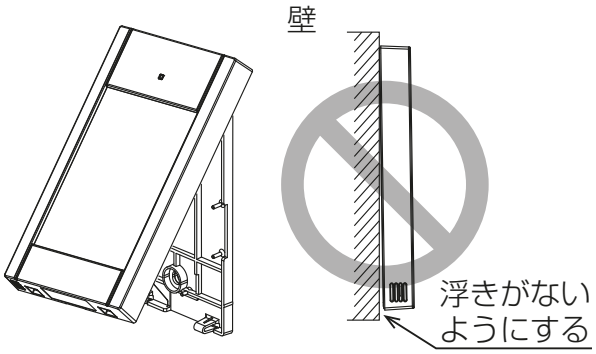


上ケースがはめ込めないおそれがあります。

(9) 上ケースをはめ込む

手順

1. 上ケースのツメ(上部2か所)を下ケースに引っ掛けて、“パチッ”と音がするまではめ込む。
2. ケースに浮きがないことを確認する。



お願い

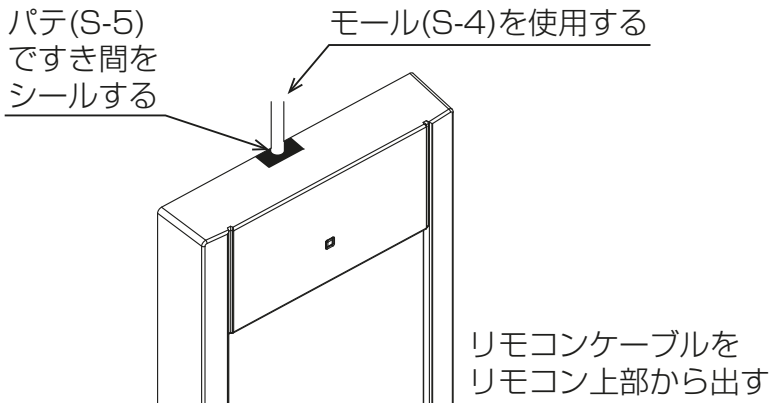
- **上ケース上部のツメを下ケースに引っ掛けていない状態で、上ケースを下ケースにはめ込まないでください。**
  破損するおそれがあります。

(10) リモコンケーブル引込口をパテでシールする

壁面に直接据付ける場合(リモコンケーブルを壁面に這わす場合)

手順

1. リモコンケーブルをリモコンの上部から出す。
2. 上ケースの切り取った部分をパテでシールする。
3. モール(配線カバー)を使用する。

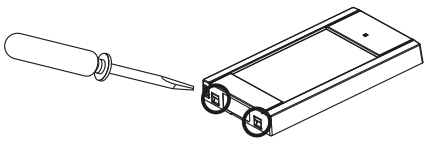


以上で据付工事は完了ですが、再度取外す場合は「4-4-2.[2]」の手順に従ってください。

[2] リモコン上ケースの外し方

(1) 上ケースのツメを外す

刃幅が3～5mmのマイナスドライバーを、リモコン下部のツメ部分に差し込み、マイナスドライバーでツメを押すようにして、引っかかっているツメを外します。



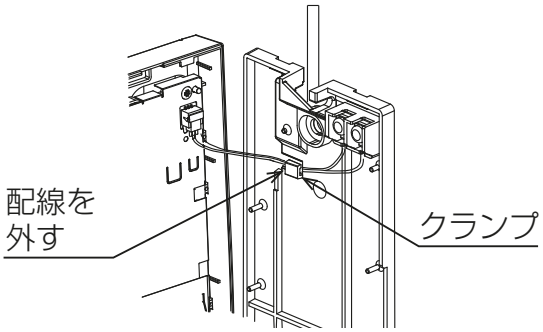
お願い

- **マイナスドライバーをリモコンのツメに強く差し込まないでください。**
  基板が損傷するおそれがあります。
- **マイナスドライバーをリモコンのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。**
  ケースが損傷するおそれがあります。

(2) 配線をクランプから外す

手順

1. 配線をクランプから外した後、コネクタの根元をおさえてコネクタを外す。



(3) 上ケースを取り外す

手順

1. 上ケースを手前上に引いて取り外す。

お願い

- **コネクタを取り外す前に上ケースを強く引かないでください。**
  コネクタの配線が切れるおそれがあります。

4-5. サービス

再度取外す場合は「4-4-2.[2]」の手順を参考にしてください。

5. 据付工事後の確認

据付工事が完了しましたら、「5-1. 据付工事のチェックリスト」に従ってもう一度点検してください。不具合がありましたら必ず直してください。（機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません）

5-1. 据付工事のチェックリスト

確認項目		確認結果
設置環境	設置周りは必要な空間が守られていますか	
リモコン	リモコンケーブルの切屑などが端子台に入っていませんか	
	端子台のねじに緩みはありませんか	
	コネクタは正しく接続されていますか	
	リモコンケーブル引き込み口はパテ（S-5）などでシールしましたか	
	上ケースと下ケースに浮きがなくはめ込んでいますか	

5-2. リモコンの設定

リモコンの設定は、「リモコンの据付工事説明書（設定編）」を参照してください。

5-3. 温度センサの設定

温度センサの設定は、マルチエアコンシステムでは「室内ユニットの据付工事説明書」を、スリムエアコンでは「リモコンの据付工事説明書（設定編）機能選択の項」を参照してください。

5-4. 保護シートの取外し

工場出荷時、上ケースの操作面に保護シートを貼っています。
ご使用の前に、保護シートをはがしてください。

6. 試運転

6-1. 試運転の方法

- お客様立ち会いで、同梱の「据付工事説明書（設定編）」に従って、試運転を行ってください。
- 試運転の詳細は、室内ユニットの「据付工事説明書」を参照してください。

6-2. 試運転中の確認事項

- リモコンに接続している室内ユニットが運転することを確認してください。
- グループ運転する場合は、リモコンと同じグループに属する機器が運転することを確認してください。

7. お客様への説明

- 別冊の取扱説明書に従って、お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- この据付工事説明書は、据付け後お客様にお渡しください。なお、同梱の取扱説明書・据付工事説明書（設定編）・取扱説明書（Bluetooth® 設定編）も必ずお客様にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合、この据付工事説明書と取扱説明書・据付工事説明書（設定編）・取扱説明書（Bluetooth® 設定編）を新しくお使いになる方にお渡しください。

WT08598X06

8. 安全に長くお使いいただくために

標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合や、経年劣化を進める事情が存在する場合には、設計使用期間よりも早期に安全上支障をきたすおそれがあります。

8-1. 日常の保守

8-1-1. 上ケースの清掃

中性洗剤を柔らかな布に含ませて拭き、最後に乾いた布で洗剤が残らないように拭きとります。ベンジン･シンナー ･磨き粉の使用は避けてください。

※ 中性洗剤は、使用量の目安までうすめて使用してください。原液のままで使用しないでください。

8-2. 点検時の交換部品と保有期間

＜参考＞　主要部品の交換周期

主要部品名	交換目安周期
リモコン	10年

※ 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。

※ 交換周期は保証期間とは異なります。

※ この保全周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、保全行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全設計（保守点検費用の予算化）のためにお役立てください。

8-3. 商標について

- Bluetoothワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、三菱電機株式会社は、これら登録商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)
0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

本社　〒100-8310　東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)

2021年6月作成

WT08598X06